

2012年(平成24)12月

カルメル 霊性センターニュース



仔羊の礼拝 ブロンジーノ、A. 1530年 Museum d. bild. Künste. Budapest

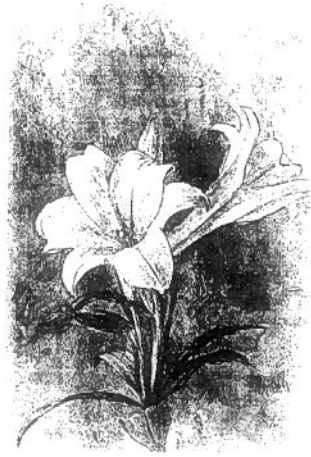
2012年12月

282号

目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	21
諸所の企画案内	35
年間購読(郵送)のご案内	46
編集後記	47

心の泉



DE IMITATIONE CHRISTI
キリストにならう バルバロ訳



第一卷

第二十四章 罪人の審判と罰

5 徳の報い

その時、深い学問を持つよりも、清い素直な良心のほうが、はるかに喜びをもたらす。その時、富を軽蔑したことは、この世のすべての宝を持つよりも価値があるであろう。その時、敬虔な祈りの思い出は、美味しい食事の思い出よりあなたを慰めるであろう。その時、長いおしゃべりよりも、沈黙を守ったことのほうが、はるかに喜びをもたらすであろう。その時、聖なる業は、多くの雄弁よりも価値があるであろう。その時、厳しい生活と、辛い苦行とは、地上のすべての楽しみよりも、あなたを喜ばせるであろう。だから今、小さな苦しみを忍ぶことを学びなさい。そうすればその時、さらに重い苦しみを避けられるであろう。あなたが後の世で課せられる苦しみを、まずこの世で甘受しなさい。もし今、これほどわずかな苦しみを忍べないならば、どうして永遠の罰を忍べるであろう？もし今、わずかに不愉快なことさえ、これほどに忍べないならば、地獄の火はどうであろう？実にあなたには、この世で楽しみ、後の世でもキリストと共に幸福に生きるという二つながらの幸せは、ゆるされないことである。

6 地獄の恐怖

もしあなたが、今日まで絶えずほまれと快樂とのなかに生きてきたとしても、今を愛して、突然死が訪れたとすると、それらが何の役に立つであろう？神を愛して、神に仕えること以外は、「すべて空しいことである」(コヘレト 1・2 参照)。心をあげて神を愛する人は、死も、痛みも、審判も、地獄も恐れない。完全な愛は、神への安全な道を靈魂の前に開くからである。それに反して、罪を犯しても悔いない人が、死と審判とを恐れるのは当然である。もし愛があなたを罪から遠ざけることができないとしても、少なくとも地獄を恐れて罪を避けよう。神への畏敬を重んじない人は、長く善の道に歩むことができなくなる。すぐに悪魔の罠にかかってしまうであろう。

信仰年に

神と親しく生きるために - 12 -

教会歴では王であるキリストの主日でB年の終わり、12月初めの主日はもう待降節第1の主日です。新しい年C年の新年となります。信仰年にあたるこの新しい年に、「世の光」、「命のパン」として来られたキリストを、私たち一人ひとりが日々の生活のなかでさらに深く信じていくことができますように。



神よ 私がいるこの世にあなたがおられることを 信じます。
あなたを見ることはできませんが 信じます。
私のすぐそばにおられることも 信じます。
遠くの明かりへと 私を導いてください。
私の周りの暗闇にもかかわらず
私を魅了する遠くのあの明かりへ 導いてください。
暗闇の真ただ中においても 信仰は光の源なのです。

～『神と親しく生きる いのりの道』より～

聖母文庫、聖母の騎士社

12月ともなりますと巷では、闇の夜にきらめく飾りつけ取り付けられ、「きよしこの夜」が鳴り響きます。幼子イエスの誕生とは関係なく商業ベースのクリスマス・年末のにぎわいが増してきます。師走の忙しい日々にも心の内をベトレヘムの馬小屋として静かにイエスの誕生を待ち望むことができますように。

よ い ご 降 誕 祭 を お 祈 り し て い ま す 。

伊 従 信 子

ノートルダム・ド・ヴィ

インドネシア紀行〈4〉

くのり
九里 彰

バジャワでは、着いた翌日の午後 3:30 より、荘厳請願式が志願院・修練院横の聖堂で行われことになっていた。まさにこのために、フェリックス管区長は、クーポンから私と共にやってきたわけである。しかし、式が始まったのは 4 時過ぎ。30 分の遅れを気にしている者は、だれもない。

式は二時間ほどで終わり、その後、修道院のホールでパーティが催された。最初に荘厳誓願を宣立した二人の神学生が聴衆に挨拶、その後、管区長の挨拶、～氏の挨拶…と続いた。司会は志願者の一人。皆を笑わせながら、慣れた様子。この後、食堂に移り、全員が軽い食事を取った。

食事の後は、いろいろと出し物があった。志願者たちによる寸劇。これは喜劇らしく、皆が大笑いしていた。その後は、刀と盾をもった伝統的な戦闘の踊り（志願者か修練者）が行われた。最後は、皆で阿波踊りにも似た民衆の踊り。私も中に巻き込まれた。

翌日は、召命促進担当の F 神父と、カルメル・ユースの S さん（女性）と、近くのカルメル会担当の小教区の教会を訪問。この教会はインドのマンジュメル管区から創立に来た二人のカルメル会神父（二人とも帰天）によって創立されたもので、日本で言えばカテドラル級の大きさ、信徒数は一万五千人とのこと。要するに町の多くの人々がカトリックだということである。

その後、少し離れたインドネシアの伝統的な村を訪問。それから神言会の黙想の家に行き、インドネシア人の神父さんに会い、食堂で歓談する。黙想者はだれもいなかった。かなり広い敷地（数ヘクタール？）に大きな建物がゆったりと建っていた。収容人数は聞かなかったが、食堂の広さからすると 100 名近くは泊まれそうであった。黙想の家の真向かいには、道路を隔てて、神言会経営の小学校があった。S さんの甥（小学生）もいた。

その後、修道院にもどる。午後は、管区長と私と F 神父の三人で、女子カルメル会を訪問。女子カルメルは最近 4 つ目が創立されたそうで、カトリック人口（700 万）が多い割には少ない（因みに 45 万の日本では女子カルメルは 9 つ！）。面会室で歓談した後、夕食を御馳走になり、修道院にもどる。
(続く)

「いつも目を覚まして祈りなさい」(ルカ 21, 36)。

教会の典礼の暦は、今日から待降節、救い主の到来を待望する心構えを強調する季節に入りました。救い主、神の御子は貧しいナザレの女マリアの御子となって、約 2000 年前にすでに地上に到来したのではないですか。確かに、そうです。それなのに、なぜ、まだ、待つことが必要なのでしょうか。その到来までの永い期間、いわゆる人祖アダムとエバから始めて全人類は、いえ、人間だけではなく全被造界は、約束された救い主の到来を待ち続けてきました。この待望をはっきりと意識してきたのが、旧約聖書が描くアブラハムに続く神の約束の民、ユダヤ人たちの歴史でした。待降節は、この時代に生きた人々の心の構え、信仰と希望の態度を記念します。しかし、それは、過去の人たちのことを思い出すためではないのです。旧約の民の待つ姿勢を思い起こすのは、実は、わたしたちも、まだ、待っている、救い主が十字架の死と復活で成就した救いの完成の中に迎え入れられる日を待っている、この待望と期待の状態にいるからです。この期間を、真実に生きる方法を、「希望するすべもなかったときに、なおも望みを抱いて、信じ」(ロ-マ 4, 18) た旧約の人々に教えられるからです。

救いの完成に迎え入れられる日のことを、今日の福音は語っています。しかし、その語り方は、救いの喜びとは正反対の希望を喪失させる状況を描写しているかに、見えます。「諸国の民は、なすすべをしらず、不安に陥る。人々は、この世界に何が起こるのかとおびえ、恐ろしさのあまり気を失うだろう。天体が揺り動かされるからである」(ルカ 21, 25-26)。VFX、視覚映像効果と言われる技術があります。現実には目撃できない現象、たとえば、宇宙の滅亡、崩壊と言った事象を、現実以上にリアルに映像化する技術だそうで、日本人はこの分野で優れているとのこと。しかし、映像の中にイエスが語るお言葉の真意、実像を写し出せるものでしょうか。イエスは、一見して、恐怖を引き起こすと見える場面も、「福音」、真実な喜びをもたらす知らせとして語っているのです。わたしたちがしっかりと立つことができる足場、どのような危険、恐怖の中にあろうとも、揺らぐことなく信頼をこめて当てに出来る足場、それは、救いを約束するイエスの言葉です。どのような視覚映像効果をもってしても、描き出すことができないのは、このイエスの喜びの知らせの言葉なのです。イエスの救いの喜びを、わたしたちの心のスクリーンに映し出すのは、信仰と希望に目覚めた祈りのみなのです。「いつも目を覚まして祈りなさい」。ルカ 渡辺幹夫

待降節第2主日 (C)

みことばのひびき

(ルカ 3:1~6)

待降節は、エンマニュエル（「私たちと共にいる神」）の到来を告げ知らせます。神が人間の姿をとり、私たちと同じように生きるために地上に来られる時です。私たちが自分の愛を神と自分たちの間で分かち合うように、神が私たちと愛を分かち合う時です。

本日の福音では、洗礼者ヨハネのことばを伝えています。「主の道を整え、その道筋をまっすくにせよ。谷はすべて埋められ、山と丘はみな低くされる。曲がった道はまっすくに、でこぼこ道は平らになり、人は皆、神の救いを仰ぎ見る。」「主のために道を整えよ。」と彼は叫び、彼が直接語りかけた人々に対してと同様に私たちを指して言われています。「洗礼者ヨハネは罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた」とルカは言っています。そこには密接に結びついている三つの言葉があります——洗礼、悔い改め、赦しの三つです。「洗礼」はイエスの生活に入れて頂き、全てのけがれから清めて頂くための呼びかけです。過去の悪を完全に洗い流して頂くことを希望しヨルダン河の水に浸ることで、神との和解を表す象徴的な行為です。「悔い改め」は罪の赦しであり、回心として理解されています。回心は過去の罪を悲しむことではなく、神と人々との関係を完全に根本的に変える心の変化を意味しています。根本的な真の心の生まれ変わりと転換を要求します。この回心は罪の赦しをもたらします。赦しは、解放、罪と悪の連鎖からの解放を意味します。赦しは重荷や苦しみを降ろすものと見られています。赦しは神と隣人との完全な和解であり、癒しであり統一であります。

福音は私たちの役割が洗礼者ヨハネの役割に似ていることを私たちに思い出させてくれます。洗礼者ヨハネと同様に私たちはそれぞれがキリストの精神を伝える使命、キリストの他者に対する希望、愛、自由、平和のメッセージを伝える使命を持っています。人々を助けるために彼らの谷を埋め、でこぼこの道を平らにします。ひとことの肯定や激励の言葉が奇跡をもたらします。自然に快活な気質を持つことはキリスト者の喜びの真のあかしとなります。

この文章を一つの逸話で終わりたいと思います。教会に通っている一人の人が新聞の編集者に手紙を書き、毎週日曜日に教会に行くのは意味がないと訴えました。「私は30年教会に行き、3,000回も説教のようなものを聞いています。しかし、そのうちどうしても一つも思い出せません。それで、私は自分の時間を無駄にしていると思いますし、また牧師さんは説教をすることで時間を無駄にしていると思います。」と書いてありました。これは、編集者を喜ばせたことに、『編集者への手紙』というコラムでの論戦の始まりとなりました。数週間続いた後、ある人が決定的な手紙を書きました。「私の結婚生活は30年になります。この間、私の妻はほぼ32,000食の料理を作りました。私はこれらの食事の一つとしてメニューをちゃんと思い出すことはできませんが、これらは全部私の栄養となり、私が仕事をするのに必要な力を与えてくれたのだと知っています。私の妻が私に食事を作ってくれなかったら、私は今日身体的に死んでいるでしょう。同様に心を養うために教会へ行っていなかったら、私は今日精神的に死んでいるでしょう！」

(Sr. Paulina)

「ヨハネは、ほかにもさまざまな勧めをして、民衆に福音を告げ知らせた」（ルカ 3, 18）。

今日の福音の最後で、福音記者は、「ヨハネは、ほかにもさまざまな勧めをして、民衆に福音を告げ知らせた」と書いています。この文章の中の三つの単語に注目してみましょう。第一は、「勧めをする」と訳出されている単語ですが、勧告をする、慰める、励ますとの意味も持っています。「ルカによる福音」の続編、「使徒言行録」の中では、福音の宣教者パウロの言動を要約して使用される言葉です。「パウロは弟子たちを呼び集めて励まし、別れを告げてからマケドニア州へと出発した。そして、この地方を巡り歩き、言葉を尽くして人々を励ましながら、ギリシャに来て・・・」（使徒言行録 20, 1-2）。これ以上に眼を引くのは、「福音を告げ知らせる」、「福音」と「告げ知らせる」とのイエスの十字架の死と復活、そして聖霊降臨後の教会の宣教者特有の活動がヨハネに帰されていることです。イエスの先駆者、洗礼者ヨハネは、福音の宣教者たちの先駆者でもあると言いたいのでしょうか。

確かに、洗礼者ヨハネと教会の宣教者の間には、厳然とした相違があります。その違いは、ナザレのイエスと言う分水嶺によるものです。イエスが教えた、特にその十字架の死と復活で証しする天の御父の真実な姿、愛と赦しに満ちた姿を、この御父に、わたしたちは子として、つまり、罰、審判への恐れからではなく、信頼と愛から近づくことが許されていることは、旧約の頂点である先駆者ヨハネも、どれほど真摯、誠実であっても、思いが至っていなかったのです。最初の福音宣教者たち、ペトロもパウロも、洗礼者ヨハネほどの真摯さに生涯生きた者ではなかった、イエスを裏切り、迫害した罪人である自分がイエスによって無償で赦された、そして、新しい者とされた、この自分の体験を通して知った勧めを、そこから始まる生命の宣教に生涯をささげたのです。

わたしたちは、教会の宣教によってイエスとその福音を知り、洗礼の恵みを受け、神の子供としていただきました。わたしたちの生き方は、共に生きる人々、その多くは、まだイエスとその福音を知らない人々の中で、「さまざまな勧め、勧め」を与え、福音を告げ知らせるものとなっているのでしょうか。「わたしたちも神からいただくこの勧めによって、あらゆる苦難の中にある人々を慰めることができます」（2 コリント 1, 4）。 ルカ 渡辺幹夫

待降節第 4 主日 (C) (ルカ 1 : 39—45)

今日の福音は神の母マリアが従姉のエリザベトを訪問なさる素晴らしい物語を繰り広げます。マリアがザカリアの家に入ってエリザベトに挨拶されると、エリザベトは聖霊に満たされマリアへの称賛と喜びいっぱいの挨拶で迎えました。このマリアの訪問は、大天使ガブリエルが告げている二人の母の胎に宿っている幼子、救い主キリストと洗礼者ヨハネの出会いをもたらしました。なんと幸いな素晴らしい出会い！なんとという大きな喜び！マリアの挨拶をエリザベトが耳にしたとき、その胎の子も聖霊に満たされ喜びおどったと記されています。

神の母マリアは、信仰の人としての特別の場が与えられ強調されています。ルカの福音を通して流れるルカ好みのテーマは神の忠実さです。神はどんなことがあっても、どんな難しい状況に見える中でも必ず約束を守ってくださる方です。マリアはこの神に対する特別の信仰者として描かれています；天使のお告げによって知らされた神の約束は必ず成就すると堅く信じたマリアです。マリアはそれが何を意味するかを十分理解していたわけではありません。これは少しずつ徐々にマリアに明らかにされて行きました。そしてマリアは、御子イエス キリストが全人類の救いのために十字架に架けられご自分のいのちを捧げてくださったその時、傍らで深い悲しみのうちにこの意味を悟るのです。マリアは初めから神の恩寵で満たされ、その信仰は神に十分お応えできるよう準備されていました。これはマリアの挨拶を受けたエリザベトの挨拶にも表れています。“わたしの主のお母さまがわたしのところに来てくださるとは、どういうわけでしょう。”主ご自身の訪れを暗に意味しています。これはエリザベトの信仰を表す挨拶であり、実際、エリザベトも生涯神の働きを理解して生きた人です。

マリア自身、イエスを世に生み出す前から御子イエスに従って生きていました。未婚のおとめとして快くイエスの母になることを承諾し、神が共にいてくだされば全てのことは可能であると確信していたマリアは言いました。“お言葉どおり、この身になりますように。”このときマリアはその意味を十分に悟ってはいませんでした。“はい”と言って忠実に従うことを約束しました、わたしたちもマリアに倣いましょう。神の慈しみと愛を信じましょう。わたしたちの生涯を通していつも働いてくださる神の摂理を思い起こしましょう。特にクリスマス、幼子イエスの誕生のときに思い巡らしましょう。マリアのように、神が約束されたことは必ず成就すると信じましょう。クリスマスに向かって歩む日々、“神はいつもわたしたちと共にいてくださる方”であるという最も慰めと希望に満ちた神の約束を頼みとして過ごしましょう。毎日の生活の浮き沈みの中に神は共にいてくださいます。これを深く心に留めて生きることは、わたしたちの真の幸せ、汲みつくせない心の喜びとなるでしょう。

親愛なる、キリストの友である皆さん、クリスマスと新しい年 2013 年が、主の平和と愛、喜びに満ちた時となりますように！心からの挨拶を送ります。

(Sr. Paulina)

「イエスは一緒に下って行き、ナザレに帰り、両親に仕えてお暮らしになった」
(ルカ 2, 51)。

私事になりますが、ロザリオの喜びの玄義の第四と第五玄義を唱えるときに、わたしは、いつも、特別な思いに捉えられます。その思いとは、永遠の御父の御子が、「両親に仕える」、原文により近い訳では「服従する」となるのですが、被造物である人間に服するものとなる秘儀の深さにです。神の子が、受肉によって、人となった、つまり、わたしたちが服しているすべての法則、たとえば食物を摂取してゆかなければ生き続けられないと言った生物としての自然の法則、言語、慣習、学問や職業技能を他者に教えられなければならないといった社会的動物、人間社会の法則、そして、神、御父である方とのかかわりにおいても人間の宗教的規定に服された、この神秘です。聖パウロは書いています。「時が満ちると、神は、その御子を女から、しかも律法の下に生まれたものとしてお遣わしになりました。それは、律法の支配下にあるものを贖い出して、わたしたちを神の子となさるためでした」(ガラヤ 4, 4-5)。「律法」を、モーセの律法と取るだけではなく、被造物としての人間が服するすべての法則と言い換えてもいいでしょう。神の御子イエスは、すべての法則を超越した何ものにも拘束されない自由な方であったのに、人間となることでいろいろと自由を拘束するしがらみの中に進んで入ってこられたのです。このイエスが行き着くところは、「神の身分でありながら、神と等しいものであることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、・・・人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした」(フィリ² 2, 6-8)。こうして、わたしたちをすべての束縛から解放し、自由なものとしてくださったのです。その自由とは、すべての拘束する法則を無くしてではなく、どのような状況の下にも「仕える愛」を生きる自由なのですが。

聖パウロは、上記の言葉に先立って、「へりくだって、互いに相手を自分よりもすぐれた者と考え、めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意をはらいなさい」(フィリ² 2, 3-4)と書いていますが、ナザレの聖家族を満たし生かしていたのも、この心の構えでした。実に、「へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順」であるイエスは、その従順の生涯を「両親に仕える」ことで始められたのですから。 ルカ 渡辺幹夫

家の近くに毎日のように歩く街路があります。

道に沿って一列に並んだ樹木が高々とそびえ立ち、網目のような枝のあいだからはさらに高い空が望まれ、葉をそよがせて風が渡り、ふりそそぐ太陽の光はすべてを満たします。道の両側は小高い土手になっていて、下の半分は四角い石を組んだ石垣、上の半分は蔦をのばした草木が這い、今の季節はすすきやせいたかあわだち草が生い茂っています。草や木が色づいて、葉先から枯れてゆく秋の野原を表わす未枯野（うらがれの）という季語があるそうですが、まさに風情あるその景色です。石垣の表面や太い樹木の表皮には、まるで毛布のような苔がはりついていて、その上には道行く人がこれは恰好のと手をのぼしこそげたのでしょうか、たくさんの落書きがみられます。

いつぞや「哲学の道」と名づけられた道を歩いたことがありますが、私はこの街路をひそかに「思慕する道」と呼んで、春夏秋冬独りになって歩きます。

孤独の私には必ず孤独のイエズスがひしと寄り添い、「心は内で燃え」て天と地にある人を心深く思い慕うのです。

先日、そうして歩く私の後ろで突如「マリア！ジョン！」と大きな声がして足がとまるほど驚きふり返りました。2匹の犬を連れた青年がいました。

薄茶色の美しい毛並みの同じ姿、いかにもお利口そうなやさしいまなざしでこちらを見たのが犬のマリアとジョンでした。

ペットの名前も近頃はポチとかシロなどではなく、それはそれはユニークで楽しさいっぱいなのですが、それにしてもマリアとジョンはふり返るに価する名でした。

私の代母であり、求道の同志であり、親友であったMは、無類の猫好きで4匹の猫を飼っていましたが、その名前がマリーとピーターとポールとジョンでした。Mは今から5年ほど前に「先に行ってるから」との言葉を残し、病と知ってから半年足らずのあつという間に神さまのみもとへ召されました。

互いにカトリックの幼稚園に子どもを通わせたことが縁でしたが、受洗はMの方が先輩だったことから代母を頼んだとき、本とお酒の代母ならふたつ返事で引き受けるのにと云いつつ祝福してくれました。

ほんとうにMの云うように本のお話を存分にできる得難い友であり、うれしい悲しいにつけ杯を傾けて夜を徹して語り合う飲み友だちであったのです。

40年という長い年月を、まれにみる密度の濃い交わりが成るためには不可欠でもあったのでしょうか、一時は絶交までもしてなお心を通わせました。

マリーとピーターとポールとジョンは、私たち二人がグラスを並べ、小さな料理など作って腰を落ち着けると、これは長時間になるぞとばかりに、すっかりリラックスのいで二人の間を自在に動き、まるくなってうずくまり、頭を寄せて目をつむり、時には本棚から椅子へ空中を飛んだりしていました。

とめども尽きない小説の話、聖書の話、神さまの話、そしていつしか激して争う議論にも、耳をピクピクさせていかにもというふうな顔を向け、猫に小判だよと云われても平気なそぶりでニヤアと相の手を入れたりでした。

Mが信者になる前にいた猫は「ちみ」「もうりょう」だったのですが、キリスト者の家にやってきた猫たちは聖者と覚える名前です。なぜだろうとM自身がしかたなく笑っていました。

慕わしいM、天国に猫はいますか。

名をつけるということはいかなることかと考えます。

聖書の冒頭、創世記1章で、神さまはたくさん名をつけられます。名をつけることで注ぎこまれるものがあり、それ故に存在は明確になるのだと思います。それは必然的に他との関係につながって、名を呼び名を呼ばれ内なる扉を開けるのだと思います。

私たちはかつて名をつけられました。また名をつけたことがあるでしょう。人、動物、創作物、街路、・・目に見えるもの、見えないものに。その存在を愛し、意を託し、望みを託して。

ルカ福音書1章も大好きな個所ですが、読んでも読んでもいつも読みきれない圧倒的な何かが迫ってくるのです。

「その子にヨハネと名づけなさい」「その子にイエスと名づけなさい」この刹那何が託され何が受けとられたのでしょうか。

私が出合った2匹の犬たちマリアとジョン、あなたたちは何を託され何を受けたのですか。あの道でまた会えるといいですね。

随想：奥村一郎師のことば

愛とは自分を与えること
愛とは本当は愚かなこと
愛と言うものは自分が守れない
本当の愛であつたら
どんなに裏切られても
どんなに憎まれても
唯、愛することしかできない
神は心底、愚かである……。

人間は適当に自分を守る
適当にしか自分を与えない
自分で傷つかない範囲でしか与えない
自分に役立つ範囲でしか与えない
そういう意味で人間は賢い。

“ 聖なる愚かさ ” とは
自分を与え尽くして
悔いの無いと言うことである……。



奥村一郎師 1998年撮影

これは、奥村一郎神父のお言葉です。私はこの言葉をカードにして手帳のポケットにしまっています。手帳を買替えると、聖火リレーのように差し替えてきました。師の深い祈りの境地から描き得たお言葉なのだろうと考えております。人間の深層を、これほどまでに直視した表現に今まで触れたことはありません。火のような力が、そこに在ります。

人はけっして一人では生きてはいけない。そして、人がまとまって生活するようになって以来、相互の関係を良好に保っていくことは難しい。そこで、独自の表現手段を用いて互いを理解しようと試みて来たように思う。しかし、どれだけの成果が得られたことだろうか。イエスの「隣人を自分のように愛しなさい」と大切に伝承されて来たことの裏を返せば、そのことがいかに難しい課題であるかを示しているのではないだろうか……。

私たちのこころの実相は何なのでしょう。

人は日々の暮らしの中で、いつも決断に迫られ、迷いの中を歩んでいるように思います。そして長い人生の中で、幾度か分岐点に立たされる場面がありましょう。その時に邂逅する人によって、その後の生き方が大きく変わって行く。誰にも、そのような経験があろうかと思えます。人と良好な関係を保つことが出来ないでいた自分が、出会った人からの影響を通して初めて、幾重もの壁に囲まれた己の深層に潜む実相に至る。誰にでも、そうした壁の最初の扉を開く時を意識する瞬間が在るものと思います。

「神は御自分にかたどって人を創造された」(創世記 1-27)

「もしも神が世界を創造されたのであるならば、何故この世界に悪が存在するのか。」これは、若きアウグスティヌスにとっての一大疑問であったと言われます。「人は皆、仏性ありというなら、どうして出家し修行しなければならぬのか。」これは、道元禅師が 13 歳の折りに抱いた大問説でした。聖者の抱いた疑問は、今に生きる私どもにとっても大切な課題と考えます。神、仏との出会いを意識し核心を捉えたと思った瞬間、その実相から離れていってしまう……。アウグスティヌス、アビラのテレジア、道元ら多くの聖者はそうした傲慢さに陥った己を戒め、その場に留まらぬように絶えず、その意識を打破せんと、歩を進めていったことを伝えています。

適当に自分を守り、適当にしか自分を与えない。自分で傷つかない範囲でしか与えず、自分に役立つ範囲でしか与えない……。そんな生活に気づかずにいる凡庸なる私。にもかかわらず「私は誰か？」答えを見つけないと歩みつつ、未だ先の見えぬ五里霧中の唯中のように痛感しています……………。

文末ですがもう一つ、奥村一郎師のお言葉を書き添えます。

鳥、空を飛んで鳥となり

魚、水を泳ぎて魚となる

人、人を愛して人となる……………。

天野 郁生

神の愛に出合う場

石川陽子

私は今春、10年間致しておりました小学校図書仕事を辞め、御高齢者の施設で働き始めました。毎日40名程（週に200名になりますか…）の皆様と広一いフロアで、半日御一緒させて頂き、書道、将棋、囲碁、俳句、詩吟、手工芸、ゲーム、そして臨床美術等々、それぞれに楽しまれていらっしゃるお手伝いと、又、その傍で沢山のティーカップを洗い、おやつ仕度をし、夕方お待ち帰りのお弁当の準備も、皆様とお話ししながら致します。

おやつも細かくお切りしてお出しする方もいらして、お出し致しますと、そっと小声ではありますが、「まあ一お手間をおかけ致しましたね」と、又、お茶をお勧め致しますと「充分でございます。美味しく頂戴していますよ」と、美しい言葉を頂きます。又、お手洗いに御一緒の時、私としっかり手を繋ぎ、その強さ加減で、お互いに何かを感じ、解り合えたりもします。

何故に、心身共に、御不自由、失っていく事の多くなられる中、その時から、何かが始まり、生まれているのでしょうか…幸いにして私は今のところ、健康ですが、その私には無い、何かから、日々メッセージのようなものを頂き、気が付く事が有り、神の存在、お計い聖霊のお導きを感じます。

私は、こよなく読書が好きで（教会図書に参加）そんな私に、このような事がありました。いつも静かに文庫本を手になさっていらっしゃるからおから、ふっと「あなたが、お好きそうな本と思い、宜しければ、ゆっくりお読み下さい。」と一冊の古書をお貸し下さいました。早速ページを開きましたところ、それはずっと、私が探しておりました神学書でした。（絶版になっており）葉のかわりにリボンが挿んであり、毛筆で御言葉が書かれてありました。又、後付けには、購入日と御聖体訪問なさった教会が英文字でありました。

丁度、40年前、そのお方が、今の私の年齢の頃…勿論、私がクリスチャンである事も御存知ではなく、しかし、きっと、同じ年齢の頃読まれたという何か、私と結びついたのでしょう…「意味ある偶然」のように思いました。お礼の気持ちと嬉しさで、少々お尋ね致しました。

私の好きな八木重吉の詩に「つきとばされて宇宙に二人、神と出会ったら、なんと言う！」…「如何お話しなさいますか…」と「いやはや、これは大変なお礼ですね。もう少し生きさせて頂き答えを出しましょう」と、素敵なお言葉を頂戴致しました。又、このようなお話もあります。ある日、あるお方から、手招きされ私は、本当に今、ここにいるのか、幻ではないのか、よく判らないので、一度、手を強く握ってくれませんか…と。私は「大好きな作家、ジュリアン・グリーンジュリアン・グリーンの幻想小説の中を漂っておいでと思われなされば素晴らしいのではないのでしょうか」と申し上げましたところ、急に目を輝かせて、「えっ、ジュリアン・グリーン、私も夢中で読みました。書棚の何処かに埃りをかぶっている本を、引っ張り出してみましよう…いやーあ、あの若い頃を思うと、少し元気になりそうです。ありがとう、感謝です。」

このように、御高齢者の皆様と日々の何気ない事、平凡で他愛の無い事を、〃共有〃する事によって、息を吹かれ、輝き始めるように思いますのは、そこに正しく、聖霊の息吹き、神の現存を感じ、その場に、私をお使し下さいました神のお計いに感謝申し上げます。「祈りを働きとし…働きの中に感謝ある日々です。」

「花びらの散る時、花は着物を脱いで地上に睡ろうとするようだ。これはその最後の恩典で、神への帰順を示す。いかなる聖霊が沈黙の中に死ぬこれらの花を、支配するのか！われわれはこれらに聴き、また感謝すべきである。」

ギュスタ・ヴ・コキヨ 筆録
「ロダンの言葉」

多謝。

いのちの言葉 11月

わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。
わたしの父はその人を愛され、
父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む。

(ヨハネ14・23)

イエスがこの言葉を語られたのは、地上を去る前、使徒たちに向かって、大切な深い話をされた時でした。話の中でイエスは「わたしを愛する人に、わたしは自分を現す」と言われ、それゆえ使徒たちは、後にご自分を見ることになることと約束されました。

すると、イスカリオテでない方のユダが「なぜ世の人皆にではなく、私たちにだけ、ご自分を現そうとされるのですか」と尋ねました。ユダはイエスが皆の前に堂々と姿を現されることを望んでいました。そうすれば、歴史を変えることができ、世を救うために一層効果的だと思ったのです。実際、使徒たちは、イエスこそ当時人々が待ち望んでいた預言者であると考えていました。イエスはイスラエルの王として、すべての人の前に現れ、神の民の頭となって、神の御国を揺るがぬ形で打ち建ててくださると使徒たちは思っていたのです。

しかしイエスは、ご自分が再び姿を現す時、劇的で外面的な形を取ることはない、とお答えになります。そうではなく、信仰と愛を生きる人の心を三位一体の神が「訪れる」という、シンプルで素晴らしい形を取られるのです。

イエスはこのようにお答えになりながら、ご自分が死後どのように使徒たちの間に残られるかを明らかにされました。彼らのご自分とつながりを保ち続けるにはどうすればいいか教えてくださったのです。

わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む。

イエスがいてくださるために、私たちは未来を待つ必要はありません。今から、キリスト者一人ひとりの内や共同体の中で、イエスがおられるようにできるのです。その時には、柱や壁で造られた建物よりも、むしろキリスト者の「心」そのものがイエスを迎え入れる「神殿」となるでしょう。その人の心は、新しい「聖櫃」、三位一体の神が生き生きと住まわれるところになると言えるでしょう。

しかしキリスト者は、このみ言葉をどう生きることができのでしょうか。私たちの内に神ご自身がいてくださるには、どうすればいいのでしょうか。このような神との深い交わりに入るための道は何でしょう。

答えはイエスを愛することです。

ただしその愛は、単なる感傷的な愛ではなく、具体的な生活となって現れるもの、すなわちイエスのみ言葉を守ることです。

このような行いを伴う愛をキリスト者が生きる時、神は愛でこたえてくださいます。すなわち三位一体の神が、キリスト者のもとを訪れ、その人の内に住まわれるのです。

わたしを愛する人は、わたしの言葉を守

る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む。

「…わたしの言葉を守る。」

では、キリスト者が守るよう招かれている「言葉」とは何でしょうか。

ヨハネの福音の中でイエスが「わたしの言葉」と言われる時、それは多くの場合、「わたしの掟」と同じ意味です。キリスト者は、イエスの掟を守るよう招かれています。ただし、ここで言う掟は多くの規則を集めたものではなく、イエスが弟子たちの足を洗われた時に示されたもの、すなわち「互いに愛し合いなさい」という掟の中に、要約されると言えるでしょう。イエスが教え、自ら実践されたように、キリスト者一人ひとりが自分のすべてを与えて相手を愛するよう神は命じておられるのです。

わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む。

では、このみ言葉をよく生きるには、どうすればいいのでしょうか。御父ご自身が私たちを愛してくださり、三位一体の神が私たちの内に住んでくださるには、どうすればいいでしょう。

心を尽くして、根気強く、徹底的に、私たちの間で相互愛を生きることです。

十字架のイエスは、自分を捨てるよう、私たちを招いておられますが、自分を捨てるための道も、相互愛の中に見いだすことができます。実際、相互愛を生きる時こそ、私たちの心にはさまざまなキリスト教的徳が培われます。そして、成聖に向かうよう招く神の呼びかけにも、こたえていくことができるのです。

キアラ・ルービック

* フォコラーレの創立者キアラ・ルービックが、2008年3月14日に帰天した後、彼女が過去に残した解説を「いのちの言葉」として取り上げています。今月の言葉は、2001年5月に発表されたものです。

★ **いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。**

●お知らせ いのちの言葉の集い

関東：

とき： 11月11日（日）

14：00から

ところ： 藤沢市労働会館にて

長崎：

とき： 11月25日（日）

14：00から16：00

ところ： 長崎男子フォコラーレ・センター

み言葉の体験

お父さんとお母さんがけんかをしました。私は悲しくて、何が出来るかと考えました。そして、妹と紙でハートと花を作って壁に貼りました。それから黙ってテレビを見ている二人の所に行き、テレビを消して、妹と歌を歌いました。二人は、互いにあやまり、再び家族に平和が戻ったので、私は嬉しくなりました。

連絡先

フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：フォコラーレで検索

<http://focolare.world.coocan.jp/>

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（160）



時間を超えた、神の時間

死の後に「後」はありません。後とか前という言葉は、死すべき私たちの命、すなわち時間と空間の内にある私たちの命に属するものです。死は、年代記の境界から私たちを解放し、時間を超えた、神の「時間」へと私たちを連れて行ってくれるのです。それゆえ、死後の世界に関する推測は、単なる推測にすぎないのです。死を超えたところには、「最初」も「その後」も、「ここ」も「そこ」も、「過去」も「現在」も「未来」もないのです。神がすべてにおいてすべてだからです。時の終わり、からだの復活、栄光に満ちたイエスの再臨などは、もはや時間の内にいない人々にとって、もはや時間によってばらばらにされているものではないのです。

時間の内にまだ生きている私たちにとって、キリストにおける新しい命を、あたかも私たちが理解したり、説明できるものであるかのように取り扱わないことは、重要です。神の心と思いは、私たちのそれよりずっと大きいのです。私たちに求められていることのすべては、信頼です。 (1206)

時が満ちること

イエスは、時が満ちた時、来られました。時が満ちた時に、彼は再び来られるでしょう。イエスがキリストであるところではどこでも、時は満たされるのです。

私たちはしばしば時が空っぽであることを体験します。私たちは、明日、あるいは次の週、あるいは次の月、あるいは次の年、ほんとうのことが起こることを希望しています。けれども私たちは時折、時が満ちていることを体験します。それは、時が静かにたたずんでいるように思われる時です。過去と現在と未来が一つとなり、私たちがいるところにすべてが現存し、神と私たちとすべてものがまったく一致に至ったような状態です。これが、神の時の体験です。「時が満ちると、神は、その御子を女から、しかも律法の下に生まれた者としてお遣わしになりました」（ガラ 4・4）。そして時が満ちると、神は「あらゆるものを、天にあるものも地にあるものも、頭であるキリストのもとに一つにまとめられるのです」（エフェ 4・10）。時が満ちた時、私たちは神にまみえるのです。 (1218)

（九里 彰訳）

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (64)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

ひれ伏す聖女

聖像を倒したり、斧で祭壇を破壊することなど、いかなる聖画像破壊主義的な行為を問題にしているのではありません。ここでは、テレジアと聖ヨハネの霊的な花（エピソード）を取り扱っているのです。このことは、恐らく 1569 年に起こりました。十字架のヨハネがしなければならなかったメディーナへの旅での出来事です。そこで彼は、跣足カルメル会修道女の面会室へ通されました。

神について知ることや救い主の言葉を聞くことに飽くことなく飢えていた聖女（訳注：イエスの聖テレジアのこと）は、ヨハネ修士に、共同体へ講話をするように頼みます。ヨハネ修士はこれを受けます。その後、テレジアと十字架のヨハネの二人は、話を始めました。「話をしている二人を、他の修道女たちが見ていると、おそらく聖女をほめる言葉が心に触れ、それを聞くやいなや、聖女はひれ伏し、口と顔を床につけました。聖女がひれ伏すと、修道女たちはひざまずき、主の僕（訳注：十字架の聖ヨハネのこと）に、聖女が起き上がるよう命令してほしいと願いました。彼は、穏やかな言葉で、彼女たちに言いました。

『地と塵と共に、いさせてあげなさい。そうすることが喜びなのですから』。

とうとうヨハネは、「起き上がるように彼女に願いました。彼女は、喜びに満ちあふれた顔で起き上がりました。彼女が非常に尊敬し、愛していた人に対し、このようにふるまうことは、最高の喜びと慰めだったのです」。



跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



<< Communications (時事通信) >>

カルメル会ラテンアメリカ地区会議

第三回カルメル会ラテンアメリカ地区会議に100名以上が出席

サンパウロブラジル発 (2012年11月2日)

カルメル会ラテンアメリカ地区会議(ALACAR)は、去る10月22日から27日まで、ブラジルのサンパウロにあるサンタ・フェ司牧センターで第三回カルメル会ラテンアメリカ会議を開催しました。

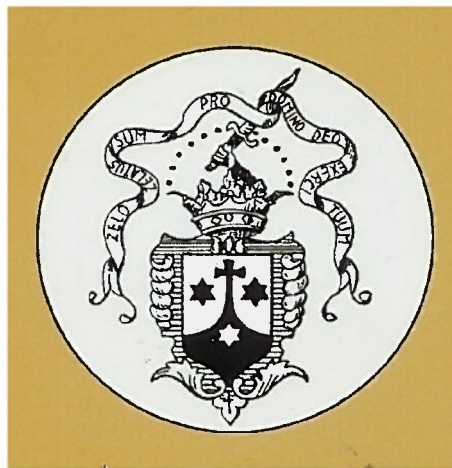
これには、ラテンアメリカとカリブ地域からの履足カルメル会と跣足カルメル会の修道者と信徒達110名が出席しました。会議のテーマは、”カルメル会における共同体生活：恵み、喜びのしるし、希望”でした。

会議では、三つの責務が採択されました。第一は、それぞれの地方、地域、国において履足カルメル会と跣足カルメル会の間で、カルメル会ファミリーとして兄弟的な関わりを深めるためにいろいろなレベルでの交流を促進すること。第二は、個人的、共同体的な人間関係において兄弟愛を優先的に生き抜く重要性を受け入れること。第三は、兄弟愛の経験をもっとも貧しい人々にまで拡張し、彼らを福音的な場において認め、教会内に彼らの居場所と尊厳を取りもどすための司牧活動を喚起することです。

履足カルメル会前総長フェルナンド・ミラン神父と跣足カルメル会ラテンアメリカ地区の総長顧問マルコス・ユッヘム神父が出席し、二つのカルメル・ファミリーの間で行なわれたこの会議の重要性と必要性を認識するよう、参加者を鼓舞しました。



カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター ～ '14年3月

黙想企画 ** 聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 待降節黙想会 岩島忠彦神父 (イエズス会司祭)

12月 8日(土) 10:00~15:30 「祈りを伴った生活」

2. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2012年12月24日(月・振休)~25日(火)《講話なし、夕食なし》

2013年12月24日(火)~25日(水)《講話なし、夕食なし》

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

2013年 3月28日(木)~31日(日)《講話なし、各食事つき》

3. 木曜黙想会 (毎回木曜日10時~16時)

2013年度 年間テーマ 「信仰と宣教」

1月10日 「ご聖体とわたしたちの信仰」 古川利雅神父

3月 7日 中川博道神父

7月 4日 福田正範神父

11月14日 中川博道神父

12月 5日 福田正範神父

2014年

2月20日 福田正範神父

4. 金曜黙想会 カルメルの霊性 (毎回金曜日10時~16時)

12月14日 「十字架の聖ヨハネ」 中川博道神父

2013年

2月22日 「カルメルの原始会則の霊性」 渡辺幹夫神父

4月19日 福田正範神父

6月 7日 古川利雅神父

10月 4日 古川利雅神父

2014年

1月24日 福田正範神父

5. 奉献生活者の為の黙想会

12月27日(木) 18時～2013年1月5日(土) 福田正範神父

2013年

7月29日(月) 18時～ 8月 7日(水) 九里彰神父

8月12日(月) 18時～ 8月21日(水) 福田正範神父

10月 7日(月) 18時～10月12日(土) 福田正範神父

12月27日(金) 18時～2014年1月5日(日) 古川利雅神父

6. 一泊聖書深読 指導：新井延和神父 (毎回金曜日夕食～土曜日16時)

2013年

3月 1日～ 3月 2日

7. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

2013年

4月27日(土) 15時～29日(月・休) 16時

11月 2日(土) 15時～ 4日(月・振休) 16時

8. 召命黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

2013年

9月21日(土) 15時～23日(月・休) 16時

9. 聖週間前の黙想会 福田正範神父

2013年

3月17日(日) 18時～3月19日(火) 16時 「過ぎ越しの子羊・キリスト」

10. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

2013年

5月24日(金)20時～26日(日)16時

11月 8日(金)20時～10日(日)16時

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。

またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません

のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

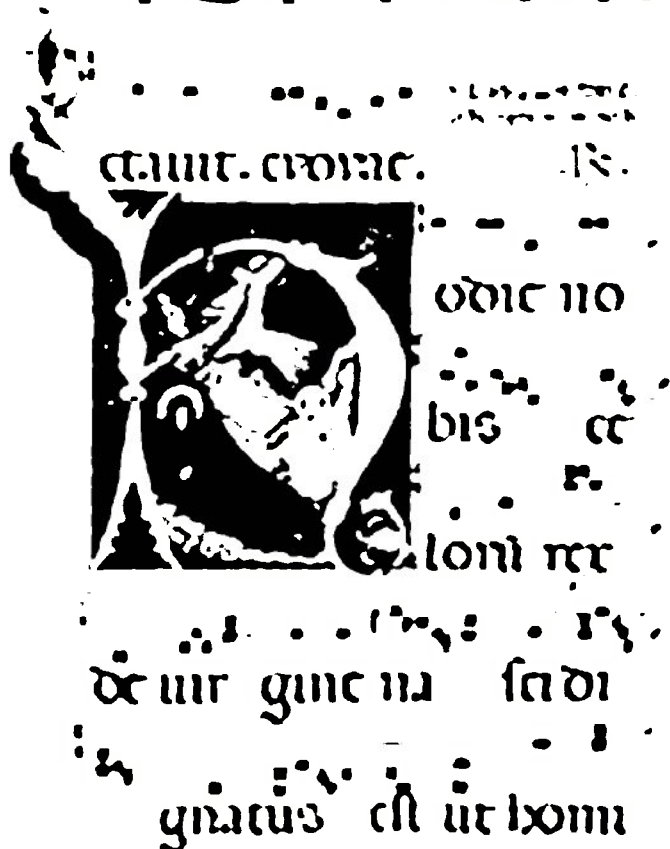
聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

待降節黙想会



*Hodie nobis celorum rex
(This day unto us the King of heaven)
--late 1220s Italia, Bologna--*

指導司祭：岩島 忠彦 神父
イエズス会司祭

「祈りを伴った生活」

2012年12月8日(土)

10:00 ~ 15:30

カトリック上野毛教会

ご参加申込みの
必要はありません

- | | |
|---------------|----------------------------------|
| 9:00 ~ 10:00 | ゆるしの秘跡) 黙想会の前9時から『ゆるしの秘跡』を受けられます |
| 10:00 ~ 11:00 | 講話(1) (聖堂) |
| 11:00 ~ 12:00 | ゆるしの秘跡 (聖堂 他) |
| 12:00 ~ 13:00 | 昼食 (信徒会館1階ホール) |
| 13:00 ~ 14:00 | 講話(2) (聖堂) |
| 14:00 ~ 15:00 | ミサ (聖堂) |
| 15:00 ~ | 茶話会 (信徒会館1階ホール) |

いつものサンドイッチ屋さんが
改装中のため今回利用できません
お茶の用意は致しますが、昼食は
各自で御持参下さい

降誕祭のミサに参加するための黙想



* 日時： 12月24日（月）夕食なし～25日（火）朝食後10時まで
24日（月）は、午後3時より入室できます。

講話は、ありません。

夜半のミサより主のご降誕（日中のミサ）にかけて
主イエス・キリストのご降誕を黙想し、静修の時を過
ごしましょう

*費用： ￥4000

* お問合せ、お申込みは、上野毛聖テレジア修道院（黙想）
電話：03-5706-7355・FAX03-3704-1764

★★★★★ 上野毛教会クリスマスミサご案内 ★★★★★

★ 12月24日（月）降誕夜半

16：00～ 子供のミサ

19：30～ （クリスマスキャロルは、19：00～）

0：00～

★ 12月25日（火）主の降誕

7：00～ （早朝ミサ）

10：30～ （日中ミサ）

18：00～



講座のご案内

■場所：カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当：中川博道（カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください



カルメルの靈性に親しむ

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

12月11日	12月11日(火曜日)
2013年 2月26日	2013年 3月1日

キリストとの親しさ

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

12月4日	12月4日(火曜日)
2013年 2月12日	2013年 2月15日
3月12日	3月15日

キリスト教の基本を学ぶ

— 洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に —

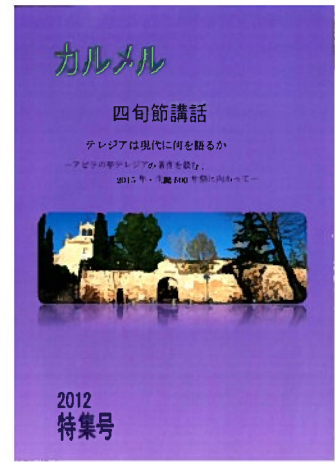
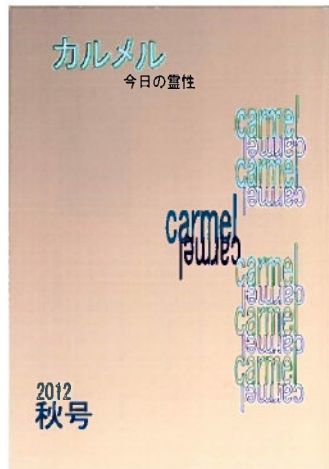
いずれも 金曜日

朝のクラス《10:30~12:00》 夜のクラス《19:30~21:00》

14	12月7日	「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」(2)
15	12月21日	「キリストと共に歩む道」(1)
16	1月11日	「キリストと共に歩む道」(2)
17	1月25日	「キリストと共に歩む道」(3)
18	2月8日	「主の祈り」
19	2月22日	「キリスト者が大切にしていること」
20	3月8日	「秘跡」(1)
21	3月22日	「秘跡」(2)

お問合せ: carmel-reisei@hotmail.co.jp

「カルメル」
今日の霊性・秋号
特集号・四旬節講話



2012 秋 No.346

カルメル 2012 特集号

「テレジアは現代に何を語るか」

砂漠の修道院に入る (2)

奥村一郎 43

僕はもう怖がりたくない

森みさ 37

アルジェリアの白い殉教者たち(後編)

高橋重幸 30

聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて
変容までの長い道のり マリー・エウジェヌヌ
編・訳 伊藤信子 (8)

23

カルメルにおいて「新しい福音宣教」を考える (1) 中川博道 16

アピラのテレサとエディット・シュクインの霊約絆
——今、ここで、聖女が語るもの 須沢かおり (1) 9

現代における「従順」の意味 (3) 九里 彰 3

● 目次 ●

● 目次 ●					
テレジアの涙					新井延和 2
『完徳の道』に見る「祈りと生活」					
アピラの聖テレジア(アヴィラの聖テレサ)の 『創立史』にみる信仰の歩み					九里 彰 10
神の住いであるわたしたち ——『靈魂の城』に聴きながら					松田浩一 22
三位一体の神との交わりの崇高な神秘体験、 地上に苦しむキリストの神秘体との連帯					中川博道 35
					渡辺幹夫 46

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：
サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円(+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+送料【700円】計 3,000円)を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

2012年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

聖書深読黙想会 1日 (午前10時～午後4時)

12月22日(土) 新井延和神父

水曜の黙想 (午前10時～午後4時)

12月12日(水) 受肉 新井延和神父

待降節の黙想 (午後5時～午後4時)

12月1日(土)～12月2日(日) 今泉健神父 肉となったみことば

奉献生活者の黙想 (午後5時～午前9時)

12月27日(木)～1月 5日(土) 新井延和神父

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時

12月24日(月)～12月25日(火) [講話なし、各食事つき]

2013年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

信仰を生きる : 2012年10月11日～2013年11月24日

【一般のための黙想】 ・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)	1月 12日(土)～13日(日)	キリストへの信頼	松田浩一神父
	5月 25日(土)～26日(日)	三位一体の中で祈る	今泉健神父
	7月 13日(土)～14日(日)	信仰宣言に生きるカテキズム	松田浩一神父
	9月 7日(土)～8日(日)	牧者キリスト	今泉健神父
	11月 2日(土)～3日(日)	信仰と行い	九里彰神父
【聖書深読黙想会】 ・ 1日 (午前10時? 午後4時)	2月 2日(土)		九里彰神父
	4月 6日(土)		九里彰神父
	6月 1日(土)		九里彰神父
	9月 14日(土)		九里彰神父
	11月 30日(土)		九里彰神父
・ 水曜の黙想 (午前10時? 午後4時)	1月 23日(水)	主の祈り (悪からお救いください)	松田浩一神父
	2月 27日(水)	祈り、節制、愛の業	今泉健神父
	3月 20日(水)	十字架	今泉健神父
	4月 17日(水)	復活の信仰	九里彰神父
	5月 15日(水)	信仰年における聖母マリア	松田浩一神父
	6月 26日(水)	靈魂の城	今泉健神父
	7月 24日(水)	信仰の種	九里彰神父
	9月 4日(水)	キリスト信者の靈的生活のカテキズム	松田浩一神父
	10月 16日(水)	アビラの聖テレジアとイエス	今泉健神父
	11月 13日(水)	キリスト教神秘を祝うカテキズム	松田浩一神父
	12月 18日(水)	クリスマスを迎える心	今泉健神父

・ 四旬節の黙想 (午後5時～午後4時)	3月 2日(土)～3月 3日(日) 光への飢え渴き	今泉健神父
・ 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)	12月 14日(土)～12月 15日(日) 人間となった神の子への信仰	松田浩一神父
・ 聖テレーズの黙想 (午後5時～午後4時)	9月30日(月)～10月 1日(火)	伊従信子師
【キリスト教霊的同伴】 (午後 8時～午後 3時) 限定10人	5月 2日(木)～ 5月 6日(月)	松田浩一神父
カルメル青年黙想会 (午後5時～午後4時)	4月 28日(日)～4月 29日(月) キリストの呼びかけに従う	今泉健神父
	11月 9日(土)～11月10日(日) キリストはあなたを呼んでいる	今泉健神父
【一般のためのカルメルの霊性入門】 (午後5時～午後4時)	2月 9日(土)～2月10日(日) 「イエスの聖テレサの新しい人間への道」	松田浩一神父
(午前10時? 午後4時)	3月 16日(土)	古川利雅神父
(午後5時～午後4時)	10月 26日(土)～10月 27日(日) 「テレサ的カルメルの霊性 No. 1」	松田浩一神父
奉献生活者の黙想 (午後5時～午前9時)	8月 2日(金)～ 8月11日(日) 8月17日(土)～ 8月26日(月) 12月27日(金)～ 1月 5日(日)	松田浩一神父 今泉健神父 松田浩一神父

祭日のミサに参加するために

【聖週間を祈る】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

3月28日(木)～3月31日(日) [講話なし、各食事つき]

【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時

12月24日(火)～12月25日(水) [講話なし、各食事つき]

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 , Fax 0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

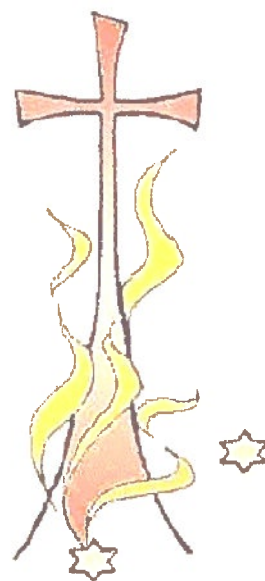
【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人 30 分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6 人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|-------------------|
| ① | 2013年 | 1月25日(金)～26日(土) |
| ② | | 2月 8日(金)～ 9日(土) |
| ③ | | 3月 8日(金)～ 9日(土) |
| ④ | | 4月12日(金)～13日(土) |
| ⑤ | | 7月12日(金)～13日(土) |
| ⑥ | | 9月 6日(金)～ 7日(土) |
| ⑦ | | 10月11日(金)～12日(土) |
| ⑧ | | 11月22日(金)～23日(土) |
| ⑨ | | 12月 6日(金)～ 7日(土) |
| ⑩ | 2014年 | 1月24日(金)～25日(土) |
| ⑪ | | 2月21日(金)～22日(土) ☆ |
| ⑫ | | 3月28日(金)～29日(土) |
- (毎回金曜日 20 時(夕食なし)～土曜日 15 時)



【参加費】 各回 5,500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
 カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
 Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
 E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

…～都会の中の一泊静修～（2013）…

（テーマ）信仰年の課題「イエス・キリストのセンスを磨く」…2000年の時を貫いてきた教会の信仰…

「『信仰の門』（使徒言行録 14・27）は常にわたしたちに開かれています。それはわたしたちを神との交わりの生活へと促し、神の教会へと導き入れてくれます。神のことばがのべ伝えられ、わたしたちを造り変える恵みによって心が形づくられるとき、わたしたちはこの門を通ることができます。この門に入るとは、生涯にわたって続く旅に出発することです。

信仰は、それを愛が与えられる経験として生き、恵みと喜びの経験として伝えられることによって、成長します。信仰はわたしたちを豊かにします。」（「信仰の門」より）

今年の信仰年は、わたしたちを「キリストのように考え、キリストのように話し、キリストのように行い、キリストのように愛する」ことへと招いています。この呼びかけに従って生きることは、わたしたちの中にキリストのセンスを磨いていきます。

「一日静修」が、信仰のうちにキリストを生き抜いた先達たちの生き方に学ぶ一助となりますように。

回	月 日	テーマ	
第1回	1月14日(月)	信仰年を生きる「信仰の門」を巡って —イエスご自身の信仰—	中川博道神父(上野毛修道院)
第2回	2月23日(土)	マリアの信仰	Sr.パウリン(宣教カルメル修院)
第3回	3月	テレーズの信仰	
第4回	4月13日(土)	使徒たちの信仰	今泉健神父(宇治修道院)
第5回	5月11日(土)	初代教会の信仰	松田浩一神父(宇治修道院)
第6回	6月22日(土)	殉教者の信仰	九里彰神父(本部修道院)
第7回	7月13日(土)	イエスの聖テレサの信仰	古川利雅神父(上野毛修道院)
第8回	9月7日(土)	聖家族の信仰 家庭・職場・地域で信仰を生きる	伊従信子師(ノートルダム・ド・ヴィ)
第9回	11月23日(土・祝)	十字架の聖ヨハネの信仰	福田正範神父(上野毛修道院)

* 時間 AM10:00～PM4:00

* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接

* 参加費 1,000円

* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当

* 定員 約30名

* プログラム

10:00～	祈り・導入・黙想
10:30～	講話(1)
	黙想・赦しの秘跡または面接
11:50～	昼の祈り・お告げの祈り
12:15～	昼食
12:50～	黙想・赦しの秘跡または面接
13:30～	講話(2)
14:45～	ミサ
15:30～	茶話会・分かち合い
16:00～	終了予定

☎ 申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

一日静修連絡係 〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685

土曜フレックスタイム静修

毎月第3土曜日 13:30 ~ 16:00 の予定で行います。

御自分の都合に合わせて好きな時間に参加でき（来る時間も帰る時間も自由）、
靈的にだけでなく、心身ともにリフレッシュできる時間として御利用下さい。

日時 毎月第3土曜日 13:00 ~ 16:00

場所 三馬教会（石川県金沢市）

プログラム

13:30 ~ 15min. 聖書朗読、短い講話

14:30 ~ 15min. ベネディクション、聖体顕示

15:30 ~ 15min. 聖体拝領

16:00 ~ サルヴェレジナ、終了

各合間の時間は、各自自由に黙想しながら祈る時間です。



靈性センター

毎月第2日曜日 14:00 ~ 15:00 カルメル靈性センターの講話があります。

日曜日、午後の一時、心の耳を澄ませてみましょう。

日時 毎月第2日曜日

場所 三馬教会（石川県金沢市）

プログラム

14:00 ~ 講話（講師：カルメル会士）

15:00 ~ ミサ

カルメル靈性センター

〒 921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父迄

Tel. 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

少しの時間、**新刊案内**
いのりのみ言葉に
耳をかたむけてみませんか

わたしは神をみたい **いのりの道をゆく**
マリー・エウジェンヌ神父とともに



伊従信子編・著

師は、神と親しく生きるように神が多くの人々を呼んでおられること、そして、その人々を神との一致にまで導くように、神が自分を召されたことを自覚していました。ですから、師はその生涯の終わりまで、社会で日々の生活を営むすべてのキリスト信者が聖性に召されていることを強調し、聖性への道を提供する務めを使徒職とする人々の養成を熱く望んでいました。
〔「はじめに」より〕

ISBN978-4-88216-339-8 C0195

268 281頁 定価630円(税込)

▼▼▼こちらもおすすめ!▼▼▼



神と親しく生きる **いのりの道**

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師とともに

R. ドグレール/J. ギシャル 著

伊従信子 訳

現代の狂騒の中で、大切な何かを見失っていないだろうか……真理、善、美、生きる意味、神との関わりを捜し求めている人たちへ送るメッセージ。

ISBN978-4-88216-307-7 C0195

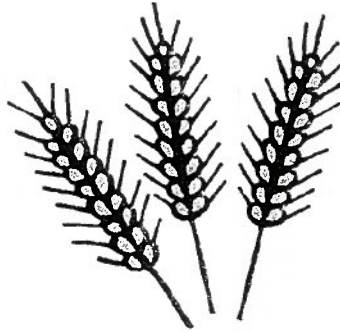
246 207頁 定価525円(税込)

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340

ご注文・お問い合わせ先



諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
マリアの御心会
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
CWC（キリスト者婦人の集い）
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2012年予定

K 5 12/01 (土) -12/07 (金) 東京・小金井・聖霊会

2013年予定

K 1 1/26 (土) -2/1 (金) 東京・小金井・聖霊会

M 1 2/24 (日) -3/2 (土) 宝塚売布・女子御受難会

N 1 3/6 (水) -3/12 (火) 滋賀唐崎・ノートルダム

K 2 4/6 (土) -4/12 (金) 東京・小金井・聖霊会

S 1 4/14 (日) -4/20 (土) 千葉白子・十字架 イエスベネディクト会

N 2 5/2 (木) -5/8 (水) 滋賀唐崎・ノートルダム

K 3 6/7 (金) -6/9 (日) 東京・小金井・聖霊会 (研修会 2泊3日)

M 2 6/23 (日) -6/29 (土) 宝塚売布・女子御受難会

T 1 7/22 (月) -7/28 (日) 兵庫西宮・女子トラピスチヌ

K 4 8/24 (土) -8/30 (金) 東京・小金井・聖霊会

M 3 9/10 (火) -9/16 (月) 宝塚売布・女子御受難会

N 3 9/28 (土) -10/4 (金) 滋賀唐崎・ノートルダム

真命山の靈性



自然 神はすべてを造り人の手にゆだねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで **祈り**



静けさ 沈黙の中に神の言葉を聞こう

信仰体験を分かち **交わり**

御聖体、愛の秘跡



- 1月12日 愛の秘跡である御聖体
- 2月9日 信仰の神秘
- 3月8日 「過越」の子羊
- 4月12日 教会を生み出す御聖体
- 5月10日 御聖体とおとめマリア
- 6月14日 キリストによって、キリストとともに、キリストの内に御聖体に生かされて生きる
- 8月 休み
- 9月13日 御聖体の典礼と美
- 10月11日 御聖体と福音の宣教
- 11月8日 御聖体礼拝
- 12月13日 終末の宴

指導者
フランコ・ソットコルノラ神父
(真命山院長)
ダニエレ サルティ・サルトリ
神父
Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先
865-0133
熊本県玉名郡和水町1391-7
真命山諸宗教対話・靈性交流センター
TEL 0968-85-3100
Fax 0968-85-3186
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
(要予約)

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、
9時30分～12時15分、岐部ホール4階404、
19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の
思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト
教の関係に関心を持っている方、プログラム等に関
してHP(文末)を見て下さい。
冬学期: 近代後半・現代の霊性と思想 (18世
紀～21世紀初頭)

11/17、12/01、12/08、01/05、01/12、01/19、
01/26、02/02、02/09

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥル
ハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全
体、10月31日、1月2日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45
分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日は休み。8月14日、28日はク
ルトウルハイム聖堂。
・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40
分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月7日は休み。
・水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトゥル
ハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全
体、10月31日、1月2日は休み。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内SJハウ
ス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
11月10日、12月1日、2013年1月5日、2月2日、3月2日
・ロザリオの祈り(同日、ミサに続いて)16時10分～16時50
分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂

●黙想会

2013年2月16日(土)10時～17日(日)14時(東村山)。1泊
6600円程度。

●坐禅会

・月曜日 17時20分～20時10分
・木曜日 18時～20時30分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。但し祝日、
4月5日は休み。3回坐り、間に講話。

●坐禅接心

秋川神冥窟。1泊2400円(+暖房費)程度。
10月31日(水)20時30分～11月4日(日)10時

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18
時)。上智大学内SJハウス第5会議室
2013年1月26日(土)

●クリスマス

クリスマス会:12月15日(土)16時～20時30分。岐部ホー
ル4階404(予定)。要申し込み。
クリスマスのミサ:12月23日(日)14時～上智大学内クル
トゥルハイム聖堂(80人限定)。



リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

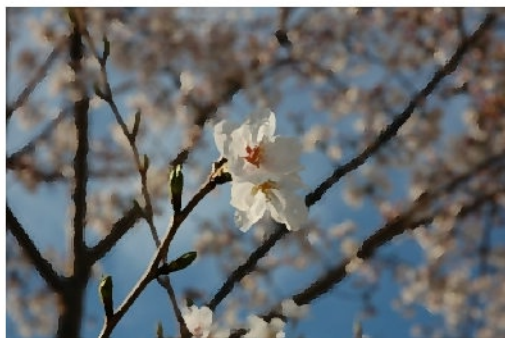
リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2012年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 12/07: 恵みとゆるし— 神の憐れみを受ける
12/14: 愛の心— キリスト教の本質
12/15: ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分パーティ、岐部ホール4階404-予定-)
12/21: 隣人愛— 他人の内にイエスに出会う
12/23: ◆クリスマスのミサ(14時、上智大学内クルトウルハイム2階、80人限定)
12/28, 1/4○休み
01/11: 希望を持つ勇氣— 未来に向かって歩む
01/18: 霊の動き— 福音による生き方
01/25: 秘跡と教会生活— 毎日を養う信仰
02/01: 神の言葉— 神との日常的な対話と黙想の仕方
02/08: 結婚と独身— 愛の道
02/15: 信徒・司祭・修道者— 誰もが召されている
02/16-17: ●黙想会(東村山)
02/22: 仕事という人間の課題— 社会と教会に寄与して働く
03/01: 人間の苦悩— 悪とは何のためか
03/08: 死— その受け入れと克服
03/15: 人生の完成— 神の内に生きる
03/22: 聖母マリア— 信じる者の原型
03/29: ○休み



※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2012年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

- [聖霊]
12/04: 神の内的現存— 人間における聖霊の働き
12/15: ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分パーティ、岐部ホール4階404-予定-)
12/18: 三位一体の神— 救いの構造から神内の存在へ
12/23: ◆ミサ(14時、クルトウルハイム2階、80人限定)
[教会]
01/15: 信仰者の共同体— 教会の本質
01/29: 救いのしるしと実現— 秘跡の意味
02/05: 憐れみと愛の祝い— 罪のゆるしとミサ
02/16-17: ●黙想会(東村山)
02/19: 「聖徒の交わり」— 世界の只中のキリスト
03/05: 人間と世界の究極の未来— 終末の約束
03/19: 信仰者の原型— 聖書と教会の教えに見られるイエスの母
03/31: ◆復活祭ミサ(14時、クルトウルハイム2階、80人限定)

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03-3263-4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

1年の終わりのミニ黙想

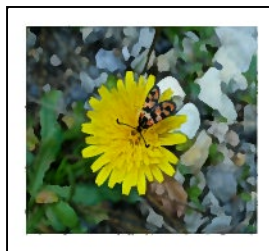
2012年12月29日（土曜日）

信仰年の始まった2012年の年末

1年の振り返りと新しい年を迎えるにあたり

神の慈しみへの希望と信頼を深めるために

ミニ黙想会で師走のひと時を過ごしてみませんか



- ◆ 2:00 沈黙の祈り
- ◆ 2:30 ~ 3:30 講話
- ◆ 3:30 ~ 4:00 沈黙の祈り
- ◆ 4:00 ~ 6:30 お茶・質疑応答・み言葉の祭儀

場所：ノートルダム・ド・ヴィ 参加費：200円

お申込み・問い合わせ ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35
TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254
e-mail notredamedevie.japan@gmail.com
ホームページ <http://www.ndv-jp.org/>

尚、通常の祈りの集いは2012年12月8日（土）です。

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」
すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2012年
12月8日（土）

講話 伊従信子 片山はるひ

午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
〒177-0044
練馬区上石神井4-3
2-35

TEL(03)・3594・2247
FAX(03)・3594・2254
E-mail notredamedevic.japan@gmail.com
ホームページ
<http://www.ndv-jp.org/>



カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

マリアの御心会

主日の福音の 分かち合い

2012年 9月28日(金)10月26日(金)

11月30日(金)12月21日(金)

午前 10:30~12:00

福音を読んで、分かち合い、祈りましょう。

どなたでも、ご参加ください。



主催：マリアの御心会

JR「信濃町」下車徒歩3分

問い合わせと申し込み TEL 03-3351-0297

働く人のための
祈りの集い
みことばの分ち合い

時間 19:00~20:30 (第2水曜日)

2012年9月12日 10月10日

11月14日 12月12日



主催：マリアの御心会
JR「信濃町」下車徒歩3分
お問い合わせ 申し込み

TEL 03-3351-0297

軽食あり、自由献金



「来て、見なさい」

「イエスとの関わり」

—主よ、私の道はどこに

—祈りと分かち合いを

通して探して行きましょう

テーマ：空の鳥をよく見なさい

日時：10月14日(日) 11月11日(日)

12月9日(日) 14:00~16:00

対象：自分の道を探している

35歳までの独身女性

場所：マリアの御心会 (JR 信濃町下車3分)

会費：各回500円

担当：マリアの御心会会員

お問い合わせ・申し込み TEL03-3351-0297

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

- ◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
Eメール： karainorind92@mbe.nifty.com
- ◎ 交通： JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約13分
- ◎ 日程：
A. 8日間の個人指導による黙想
初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。
① 3月 5日(火)～ 3月13日(水)
② 8月14日(水)～ 8月22日(木)
③ 9月27日(金)～ 10月 5日(土)
④ 12月27日(金)～ 2014年1月 4日(土)
- B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)
【神との親しさの中で日常を生きるために】
① 2月 8日(金)～ 10日(日) ② 4月 5日(金)～ 7日(日)
③ 5月 3日(金)～ 5日(日) ④ 6月14日(金)～ 16日(日)
⑤ 7月 12日(金)～ 14日(日) ⑥ 11月 1日(金)～ 3日(日)
⑦ 11月 29日(金)～ 12/1日(日)
- C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)
5月26日(日)～6月3日(月) 北村 善朗 師 (京都教区)
- ◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。
- ◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他
- ◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。
- いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順11名です。
- ◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさいたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

☆お申込みは、各集いの連絡先に記されている人に、電話かFax でお願ひします。

【連絡先電話・Fax】

若山美知子 Tel : 03-5802-3844 Fax : 同左
Sr. 藤岡 Tel : 084-921-6266 Fax : 928-7962
鎌田治子 Tel : 0467-31-9835

【注意】補充情報が随時ホームページ「スケジュール」コーナーに掲載されます。

URL : <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

●サダナ I (17:30～16:00)

*体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす冥想会。

	場所	指導	連絡先
2013年1月11日(金) — 1月14日(月)	東村山三位一会会	楠栗	若山美知子

●サダナ II (17:30～16:00)

*サダナ I をいっそう深める。身体・感情・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

	場所	指導	連絡先
2013年2月8日(金) — 2月12日(火)	援助マリア会 福山修道院	ラフオン	Sr. 藤岡

●自己を知る (9:30～17:00)

*生き生きと喜びのある人生を送るため、またより良い人間関係を育むためのワークショップ

	場所	指導	連絡先
2013年3月9・10日+3月16・17日	町田祈り研修の家	植栗	若山美知子

●日帰りサダナ (サダナ・フォローアップ) (9:30～17:00) (指導: 植栗)

*サダナ I やサダナ II を体験済みの方のために。“継続的な進歩”をめざす。

	場所	連絡先
2013年 2月 3日(日)	市谷援助修道会研修室	若山美知子
2月 未定	鎌倉聖母訪開会本部	鎌田治子



カルメルの霊性に学ぶ

『完徳の道』

日時： 12月18日(火) 第27章、ミサ
10:30~12:00

2013年 2月12日(火)

場所：真生会館



九里彰神父 (カルメル会日本管区長)

慈しみ深き会

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
— 観想の祈りへの道 —

日時：12月19日(水) 講話後ミサ
14:00~16:00

2013年 2月13日(水)

場所：イグナチオ教会信徒会館3Fアルペホール

12月のみマリア聖堂(ミサ有り)

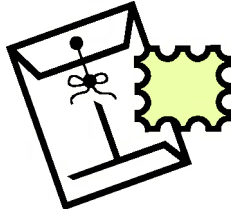
アビラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります

*参加費無料(献金歓迎)

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

靈性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *



来年(2013年)1月から12月までの『靈性センターニュース』
年間購読(郵送)のお申し込みを受け付けいたします。

年間購読の場合の献金は、2500円程度をお願い致します。
これには11回分の送料(8月休刊)が含まれます。

来年1月以降のお申し込みは、
翌月から12月までのお申し込みとなります。
例：1月申込の場合は、2月号～12月号(8月号休刊除きます)
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込受付期限：12月20日まで

申込先：下記の靈性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

《e-mailでのお申込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1764

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

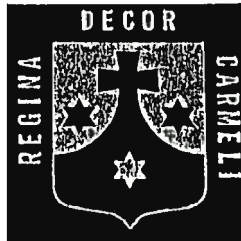


編集後記

先月上旬には、ローマから跣足カルメル修道会のザベリオ・カンニストラ総長が、東アジア・オセアニア地区の総長顧問と共に、日本を訪れた。全世界の男子カルメル会だけでなく、女子カルメル会、カルメル在世会の長で、超ハードスケジュールをこなしている。総長顧問がよく口にしている言葉だが、「世界で一番忙しいカルメル会士」であることに間違いない。今回もインドネシアをぐるぐる回り、日本を8日間（実質7日間）訪問した後、中国を訪問、その後、韓国を司牧視察（3週間）し、11月下旬にローマへもどる。次の予定の時間が来て、総長の部屋に行こうとすると、総長顧問によく止められた。空いている時間も絶えず全世界とインターネットでやりとりしているので、総長が出てくるまで待っていた方がいいと言うのである。心身ともに健康でなければ勤まらない。

わずかな時間であったが、8日間ずっといると、人となりが伝わってくるものである。歴代の総長もそうであったが、現総長は、一段と飄々としており、「平常心是道」という感じであった。これは、2009年のファティマでの総会で、彼が総長として選ばれた時の私の印象でもあった（私のすぐ近くに坐っていた）。が、今回また、その感を強くした。何にもとらわれていないという感じである。

宇治、金沢（広坂）、上野毛、名古屋（日比野）、宇治と、泊まる修道院が次々に変わったが、共同体の聖務には必ず出席されていた。 (P. 九里)



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、原則として毎月第四火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「1月号」製本日 **12月18日(火)(注)第3火曜日** 上野毛教会信徒会館ホール 1階
午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171